

シーメンスヘルスケアと相良病院

次世代女性医療の実現目指す

オンライン記者説明会 パートナーシップの進捗と展望

シーメンスヘルスケアと相良病院は9月30日、オンライン記者説明会を開き、両者が2015年

10月に協定を結んだ、次世代の女性医療の実現を目指すパートナーシップの進捗状況と今後の展望を説明した。

乳がん専門検診車を開発し運用中

相良吉昭・相良病院理事長は、パートナーシッ

プでこれまで実現した取り組みを紹介した。相良病院は日本で唯一の乳がん領域における特定領域がん診療連携拠点病院。乳がんを中心に検診から診療、緩和ケアまで一貫した医療提供を行っている。相良病院が中核を担う、さがらウイメンスヘルスケアグループは、現在鹿児島県、京都府、香川県、宮崎県、沖縄県の5法人が参画し、グループ全体の2019年の乳がん手術症例数は1500件を超える。

2016年10月からはシーメンス社製の全身統合型MR・PETシステム「Biograph mMR」を乳がん検診・診察に導入した。「MR画像とPET画像を同時に撮影することで、より詳細な手術前検査を一回で終了することが保険診療で実現した」。

また乳がん検診専門の検診車をシーメンスと共同で開発。離島僻地においても精度の高い乳がん検診を行うことが可能になった。相良理事長は、

現在2台で年間約4万件の乳がん検診を鹿児島県全域で行っていることを紹介し、「今の設備ではこれ以上検査数を増やせない状況」と話した。

オープンイノベーションが重要

相良理事長は、日本では従来から進んでいた人口減少のトレンドに、この度の新型コロナウイルス感染症の影響が加わったことで、「今後医療の規模は縮小する」として、

意図的かつ積極的に内部と外部の技術やアイデアなどの資源の流出入を活用し、その結果組織内で創出したイノベーションを組織外に展開して市場

機会を増やす「オープンイノベーション」の重要性を強調した。

今年5月に、相良病院はアジアで初めて、女性医療領域のSiemens Healthineersのグローバルファレンスサイトに認定されたことを報告。同院をSiemens Healthineersの「ealthineersのシームルス」として利用するほか、「ワールドワイドなシーメンスのネットワークを通じて日本から世界へ女性医療のモデルケースを発信することを目指している」とことを明かした。

今年7月に、相良病院は「相良病院附属プレス・トセンタール」と「さがら女性クリニック」を移転統合し新築開院。今年秋には中国・大連市に相良松本大連病院の開院も控えていることを明かした。この開院は経済産業省の国際ヘルスケア拠点構築促進事業にも選ばれた。相良理事長は大連病院にもシーメンスの全身統合型MR・PETシステムを導入していることを紹介。「シーメンスと

パートナーシップ契約を結んだのは、前例がないことを一緒に取り組んでくれると言われたのが決め手。中国に新病院を出すのも前例のない取り組みの一つだ」と話した。

アジアナンバーワンの女性医療を目指して

シーメンスヘルスケアの黒木慎也・ダイアグノスティックイメーシング事業本部長は、相良病院とのパートナーシップを「アジアナンバーワンの女性医療を目指すため」と説明。新病院事業計画に対するコンサルテーション▽シーメンスの画像診断、治療、検体検査に関する医療機器の提供▽次世代装置の共同研究開発▽内容をとし、超音波診断装置とマンモグラフィを同時に行うことができる乳がん検診車の開発などを通じて、乳がん診断のクリニカル・ワークフローの創出を目指してきたと説明した。

医療従事者に信頼されるパートナーに

森秀顕・シーメンスヘルスケア代表取締役社長は挨拶の中で、患者や地域と「共に在り、共に歩む」という相良病院の基本理念を紹介し、「人々のQOLに貢献するというのはわが社のミッションでもある。私たちはメーカーなので直接その理念を実現はできないので、医療従事者に信頼されるパートナーになることを目指している」とパートナーシップへの期待を語った。また現在日本国内で「10施設くらいの特徴のある病院とチームを持ってパートナーシップ結んでいる」と明かした。

特に、日本では諸外国と比べて乳がん検診の受診率が低いことを課題に挙げ「痛いのではないかと敬遠されているのではないかと指摘。『その後の診断・治療も視野に入れた包括的なアプローチを通じてクリニカル・ワークフローをデザインし、女性医療のロールモデルを確立したい。アジアを含む世界へ発信・普及させることで患者の不安解消などに役立てると思う』と抱負を語った。



黒木事業部長



相良理事長



森社長